

岩船地域における晩生新品種「新之助」の栽培ごよみ（暫定版）

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」！
また、いもち病に弱いため、十分注意しましょう！

目標の収量構成と品質	
目標収量	540kg/10a
穂数	400本/m ²
1穂粒数	70粒
m ² 当り粒数	28,000粒
登熟歩合	81%
千粒重	24.0g

・極良食味の晩生品種
・いもち病防除とカメムシ対策は必須です！

栽培のポイント

- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度（加温20日、無加温25日）
②播種（加温）は4月25日頃、播種量は乾籾130～150g/箱
- (2) 過剰生育防止 : ①1株苗数3～4本植えとし、茎質向上
②栽植密度は50株/坪を基本
③基肥窒素量は3～4kg/10aを基本
④中干し・溝切りを田植え後1ヶ月頃に実施し、根の健全化と茎質向上
- (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥
②出穂前後50日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進
③落水は出穂25日以降（通水最終日に十分かん水）とし、登熟向上
- (4) 病害虫防除 : ①葉いもちの箱処理剤使用
②穂いもちとカメムシ類の同時防除
③必要に応じて穂いもちの追加防除
- (5) 収穫・乾燥 : ①刈り遅れせず適期収穫・調整（黄化割合85～90%、積算温度で1050℃）
②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
③篩い目は1.9mm以上を使用
- (6) 土づくり : ①稲わら・もみ殻の秋すき込み
②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

